

## 『当然のことが幸せだということ』

小城市立晴田小学校 6年 <sup>つつみ</sup> 堤 <sup>あい</sup> 愛 <sup>き</sup> 月

「人の物は絶対に取っちゃだめ。」

皆さんはこのような言葉を言われたことはありますか。私はあります。そのため、ニュース番組で「先程、万引き犯がたいほされました。」という報道を耳にするたびに私は、「何でこの人たちは社会のルールを守れないのだろう。」と怒りを感じていました。

しかし、私の考えを変えるきっかけがありました。それは両親と観に行った「万引き家族」という映画です。そこには、生活が貧しく、苦しむ家族が出てきます。そして、まだ幼い妹さえも万引きをしています。その時私は、明日を生きていくためには食べ物を盗むしかないという人がいることを知りました。悪いことだと頭で分かっているけど、万引きをしなければ生きていけない人がいるのが今の世の中です。私は今まで、万引きをする人を軽べつの目で見っていました。しかし、どうしようもない理由から万引きをする人もいるのだと知り、見方が変わりました。そして、私は、この問題の解決には困っている人に温かく手をさしやる「社会の絆」が必要だと思います。

また、私は「社会の絆」について祖母に話しました。その時、祖母は庭にある柿の木をながめながらひい祖母から聞いたというこんな話をしてくれました。「近所の小学生の男の子が、よく柿を盗んでいったんだって。最初は怒ろうかと思ったけど、その子、お家が貧しくてお腹を空かせていたの。私はこれは許せる犯罪だと思って、そっと見守ってあげたことがあるんだって。」私は祖母の

話を聞いた時にしょうげきを受けたと同時に、ひい祖母はとても優しい人だったんだとほこらしくなりました。そして「社会の絆」とはまさにこのことを言うのだと思いました。

このことから私は今まで温かい家でご飯を食べ、清潔な服を着て過ごすことがふつうだと思っていました。しかし、今の日本ではご飯が食べられない、服を一着しか持っていないなどの貧困で苦しんでいる人が多くいることを知りました。そして、私がふだん当たり前のように過ごしている日常は、とても幸せなことなのだと学びました。

今の日本では犯罪のニュースは毎日見ますが、日々の生活に苦しむ人々のニュースはあまり見ません。そのため、日本は裕福な国だと誤って思ってしまうことが多いです。だからこそ、貧困の現状を知り、伝えていくこと、寄付やボランティアなどを通して直接支援していくことが必要だと思います。

私は今小学六年生です。社会のために出来ることは限られていますが、困っている人に手を差し伸べることはできます。そして、このような小さな積み重ねが安心して暮らせる社会につながっていくことだと思います。これからも、電車の中ではお年寄りの方に席をゆずる、お母さんの手伝いを積極的にやるなど私に出来ることを探して実せんしていきたいです。そして、私が大人になった時には社会全体が笑顔に包まれているような世界にしていきたいです。